

【検証授業Ⅲ】

尾張旭市立城山小学校

6年

1 単元 明治の国づくりを進めた人々

2 単元について

本学級の児童は、落ち着いた生活ができ、意識調査では、約7割の児童が歴史学習を好きと答えている。その反面、社会科学習では、自分の考えや意見を積極的に発言する児童が限られている。そこで、社会的事象に対して根拠に基づいて自分の考えをもち、その考えを交流する場面として、質問や反対意見の発表なども行う発表会を取り入れ、積極的な意見の交流を図りたい。

本単元では、黒船来航、明治維新、文明開化、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、国会の開設などの歴史的事象について、関わった人物の働きを取り上げ、調べる活動を通して、明治の新しい政府が、富国強兵、殖産興業など欧米諸国に負けない国づくりを目指して近代化を進めたことを理解させたい。また、政府の改革に不満をもつ人々の行動は、武力による反乱から自由民権運動へ移行し、国会開設、大日本帝国憲法の制定をもたらしたことを理解させるとともに、新政府が近代国家の体制を整え、国際社会での地位を向上させていこうとする時代の中で、国民生活の変化と意識の変容についても学ばせたい。

本単元は、変化の激しい時代を扱っているが、幕末と明治維新後、諸外国と日本、政府と自由民権派など対になる資料を比較して提示することより、児童が自ら学習問題を見付け、追究しようとする意欲を高めたい。また、まとめとして、政府派と国民派それぞれの立場に立って明治政府の改革における発表会を行い、学習してきた歴史的事象や人物についての理解を深めたいと考えた。さらに、調べて分かったことや考えたことを自分の言葉で文にしたり、伝え合ったりする活動を行う中で、多面的な見方や考え方を育てていきたい。

3 単元目標と評価規準

(1) 単元目標

- 黒船の来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布とそれらに関わる人物の働きや代表的な文化遺産を通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、近代化を進めたことを理解させるとともに、それらに関わる人物や働き、代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現させる。

(2) 評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
評価 規 準	①黒船の来航とその後の世の中の変化や明治維新に関わる人物の働きなどに関心をもち、意欲的に調べようとしている。	①明治維新によりおこった文明開化から、明治政府の行ったことを予想し学習問題を考え表現している。 ②欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた政策の意味またそれに反対する人々の願いについて判断し、適切に表現している。	①黒船来航、明治維新文明開化、自由民権運動、大日本帝国憲法の発布について、文化財、地図や年表その他の資料を活用して調べている。 ②明治政府の政策や政府に反対する人々の行動について必要な情報を集めて読み取り、ワークシートにまとめている。	①黒船来航、明治維新文明開化、大日本帝国憲法の発布における人々の働きについて、資料等を基に理解している。 また、我が国が欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民平等などの諸改革などを行い、近代化を進めたことも理解している。

4 単元計画と評価計画

時	主な学習内容と学習活動	おおむね達成（B）	十分達成（A）
気付く （問題設定） 【二斉】 ①	○ 明治時代になって人々の暮らしや社会がどのように変わったのかを考える。 ○ 寺子屋と小学校の絵を見て気付いたことから、わずか20～30年間に社会に大きな変化があったことを話し合い、学習問題を設定する。① ○ 文明開化について調べる。 ・服装の変化、教育内容の変化 ・江戸時代と明治時代の違い ・郵便、鉄道、新聞、電報などの新しい制度や文化	関①江戸時代と明治時代の違いを見付けそれらの違いに興味をもち、学習問題を設定している。 思①明治維新によりおこった文明開化から、明治政府の行ったことを予想し学習問題を考えて表現している。	・江戸時代と明治時代の違いを見付け急激な変化の理由に興味をもち学習問題を設定している。 ・明治維新によりおこった文明開化から、急激な西洋化が起きた理由を予想し学習問題を考えて表現している。
	明治政府はどんな国づくりを目指したのか。		
調べるⅠ （問題追究） 【個別学習】 【問題グループ】 ② ③	○ 学習問題について調べる。 ②③ A 黒船の来航から倒幕までの様子について調べる。 ・黒船の来航によって開国したこと ・幕府への不満が高まり幕府が倒れたこと ・徳川慶喜が政権を朝廷に返し、明治新政府が誕生したこと	知①黒船来航により我が国が混乱の中で開国し、若い武士たちが中心となって江戸幕府を倒したことを理解している。	・日米修好通商条約が国内生活を混乱させ、江戸幕府より強い政府が必要と考えた若い武士たちが中心となって明治維新を進めたことを理解している。
	B 欧米に学んだ大久保利通らが目指した国づくりについて調べる。 ・地租改正・殖産興業・徴兵令を推進し改革を進めたこと	知①富国強兵に向けた明治の改革が財政安定を目指していたことを理解している。	・富国強兵に向けた明治の改革が諸外国に追いつくために財政安定を第一に目指していたことを理解している。
	C 政府の改革に不満をもつ人々の行動について調べる。 ・武力による反乱から言論による主張へ変わっていったこと ・板垣退助と自由民権運動	知①政府に不満をもつ人々の行動が反乱から言論へと変化していったことや自由民権派が国会の開設を唱えた理由などについて、理解している。	・政府に不満をもつ人々の行動が反乱から言論へと変化していったことや富国強兵によって強い国づくりが進んでいったこと、自由民権派が国会の開設を唱えた理由などについて、理解している。
	D 大日本帝国憲法までの道のりやその特色、議会と選挙制度について調べる。 ・大日本帝国憲法では、主権は天皇にあり、強い権限が与えられたこと ・国会の仕組み（貴族院と衆議院の二院制） ・選挙権を持つ人は、まだ国民の一部だったこと	知①大日本帝国憲法の特色について、天皇に強い権限があることなどの特徴を理解している。	・大日本帝国憲法の特色について、伊藤博文がドイツの憲法を手本に天皇に強い権限をもたせたことなどの特徴や国会の仕組みを理解している。

調べるⅡ (問題追究) 【学び合いグループ】 ④⑤交流【一斉】	○ 調べて分かったことを伝え合う。④⑤ A 黒船の来航から倒幕までの様子	技①黒船来航や明治維新について、資料を活用して調べ、まとめている。	・資料を活用し、条約による生活の混乱、幕府への不満、若い武士による倒幕への動きについてまとめている。
	B 欧米に学んだ大久保利通らが目指した国づくり	技①富国強兵を進めるために国の財政を安定させようとしたことについて、資料を活用してまとめている。	・富国強兵を進めるための地租改正、殖産興業、徴兵令などの改革を取り上げ、資料を活用して相互に関連付けながらまとめている。
	C 政府の改革に不満をもつ人々の行動	技①政府に不満をもつ人々の行動について、資料を活用して調べ、反乱から言論へ変化したことを読み取り、まとめている。	・政府に不満をもつ人々の行動について資料を活用して読み取り、反乱から言論へと変化していったことを、国会開設を求める板垣退助の願いや行動に関連付けてまとめている。
	D 大日本帝国憲法までの道のりやその特色、議会と選挙制度	技①大日本帝国憲法の特色について、資料を活用して調べ、天皇主権や選挙制度を読み取り、まとめている。	・伊藤博文がつくった大日本帝国憲法の特色について、資料を活用して調べ、天皇に強い権限があることや選挙権に制限があることなどの特徴を読み取り、まとめている。
まとめる (問題解決) 【発表グループ】 【一斉】 ⑥⑦	○ 明治政府の改革について政府の立場か民衆の立場を決め、発表会に向けての準備をする。⑥ ・政府の立場と民衆の立場に分かれてワークシートに意見をまとめる。	技②明治政府の政策に対して、それぞれの立場で、国づくりを進めるための行動と不満をもつ人々の行動について、情報を集め、読み取ってワークシートにまとめている。	・明治政府の政策について、それぞれの立場で、国づくりを進めるための行動と不満をもつ人々の行動について、必要な情報を集めて具体的に読み取り、近代化と民衆の生活の隔たりが大きかったことをワークシートにまとめている。
	○ 明治政府の改革について発表会をする。⑦ 本時 ・明治政府の改革について、政府の立場か国民の立場に分かれて発表する。 ・明治政府がどんな国づくりを目指していたのかまとめる。	思②欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めたいいくつかの政策について、関連付けながら自分の考えを表現している。	・欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めたいいくつかの政策について、関連付けをしながら、政府の立場と国民の立場から多角的にとらえて自分の考えを表現している。

5 本時の指導

(1) 目標

- ① 明治時代の改革とその影響について自分の考えを述べたり反対意見に反論したりして理解を深めようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ② 欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた政策の意味やそれに反対する人々の願いについて判断し、根拠を明確にして自分の意見を表現している。
(思考・判断・表現)

(2) 準備

教師 政策カード

児童 ワークシート（発表用） 教科書 ノート 学習問題ワークシート

(3) 指導過程

時間	児童の活動	教師の活動（・教師の支援）
2	1 前時の学習内容を確認する。	
3	2 本時の学習課題を確認する。	
	明治政府の改革についてあなたは、政府派ですか？国民派ですか？	
3	3 発表会を行う。 (1) 発表会の流れを確認する。	・根拠となる資料を明確にし、ワークシートを使って発言することを押さえる。 ・中心となる政策をカードで示し、視覚的にも発表している政策が明確になるようにする。 ・政府派と国民派の意見を分けて板書し、それぞれの意見を分かりやすくする。 ・話型を参考にして、自分の考えを述べるように声を掛ける。 ・発表することだけが目的ではなく、質問や反対意見を述べることで様々な考え方を知ることが大切であると確認する。
25	(2) 発表する。 政府派 ・政府の力で殖産興業を進めたから欧米などに追いつくことができたと思う。 ・国を強くしないと外国に勝てないから徴兵令は必要だと思う。	
	国民派 ・地租改正で税金の負担が増え、徴兵令で軍隊にも入り、貧しい人の負担ばかりが増えた。 ・自由民権運動で政府にしっかり反対したから国会の開設や憲法ができた。	
2	(3) 発表会のまとめをする。	
10	4 学習の振り返りを書き、発表する。 ・学習から分かったことや考えたことをまとめる。	・感想ではなく、友達の意見も参考にして自分の考えや意見をまとめるように確認する。 ・具体的な政策名を入れて記述するように助言する。 (評価) 欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた政策の意味、またそれに反対する人々の願いについて、根拠を明確にして自分の意見を表現できたか。発表やワークシートの論述で評価する。 (思考・判断・表現)

(4) 評価

- ① 調べた明治時代の改革とその影響について自分の考えを述べたり、反対意見に反論したりして理解を深めようとしているか、発表から判断する。 (関心・意欲・態度)
- ② 発表会を通してとらえ直した自分の考えとして、欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた政策の意味、またそれに反対する人々の願いについて、根拠を明確にして論述できたか。発表やワークシートから判断する。 (思考・判断・表現)

6 結果と考察

(1) 気付く(問題設定)段階【一斉学習】

- ①「明治時代になって、子どものくらしの様子がどのように変わったか考えよう」

江戸時代の寺子屋と明治時代の小学校の絵を提示し、比較した。児童は「寺子屋では、先生が教えるというより、みんな勝手に勉強している」「明治の学校は、今の学校とあまり変わらない」「洋風の建物になって、先生も洋服を着ている」など、それぞれの特徴をしっかりととらえることができた。

明治と現代の学校の様子を比較すると、「明治時代から120年も経っているのに先生の髪形も服装もそんなに変わっていない」と、現代と明治の学校が、江戸末期から明治初期の学校への変容ほどではないことにも気が付いた。寺子屋から小学校に変容した年を予想すると、約50年から80年であるとした児童がほとんどであったが、資料のような小学校の実現は、約20年か30年で進んだと伝えらるると、「なぜこんなに変わったのか」と児童は驚いた。児童の関心は、江戸時代と明治時代の学校の様子の違いから、学校が変容した理由へと発展していった。そこで、各自がもっと知りたいこと、調べたいことを学習問題として、追究していくことにし、「なぜ先生が洋服を着ているのか知りたい」や「学校以外にも変わったことがあったのか調べてみたい」など明治時代の変化に目を向ける児童も見られた。

そこで、「明治政府はどんな国づくりを目指したのか」という単元を通しての問題として学習を進めていくことを確認した。

問題解決的な学習は初めて行ったため、児童の疑問や感想を基に教科書を参考にして教師が設定した問題を選択させる方法を採用した。A～Dの4種類のワークシート(資料1)を準備し、4～5人のグループ内で各自が調べたい学習問題を選び、全ての問題が追究できるように話し合って決定した。問題設定については、「写真や資料を見て話し合っていたら、もっと調べてみたいことを見付けた」と感想を書いた児童が多く、約7割の児童は「自分で問題を設定できた」ととらえていた。【思①】

(2) 調べるⅠ(問題追究)段階【個別学習】【問題グループ学習】

- ②③「自分の問題について調べよう」

4種類のワークシートから選択した問題ごとに集まってグループで調べ学習を進めた(資料1)。ここでの学習は、個別学習による調べ学習を行った後、問題別でグループ学習を行った。四つの問題とは、①「明治維新を進めた人は、どのような人々のどのような思いからか」②「欧米に学んだ大久保利通らは、どのような国づくりを目指したのか」③「政府の改革に反対する人々のとった行動はどのようなものだったのか」④「伊藤博文は、どのような思いをもって大日本帝国憲法をつくったのか」である。

写真1 分かりやすくまとめた学習問題ワークシート



学習問題ワークシートには、それぞれの学習でポイントとなる事柄や用語を掲載しておき、学習の

視点を与え、調べ学習をするようにした。

児童は、それぞれ教科書、資料集などを読み込み、図書室、学習室での資料探しを行い、よい資料はみんなで見せ合ったり、教え合ったりしながらワークシートにまとめていった。用語や人物の説明を細かくたくさん書き込む児童が多く、資料を丸写しするような状態が見られた。そのため、大切な事項をタイトルにして、箇条書きや矢印などによって、情報の取捨選択をし、分かりやすくまとめることを目標にした。分かりやすくまとめている児童のワークシートを提示し(写真1)、細かく説明することよりも流れが説明できることや学習問題の解決に結び付くワークシートにするように確認しながら指導をした。

調べ学習が進むと、それぞれのワークシートを読み合ったり、説明する練習をしたりした。児童に学び合いのための準備について尋ねると、「友達に教えなくてはいけないから、責任を感じる」「自分で調べた事だから説明しやすい」と答え、児童の学びが主体的な学びになっていることが感じられた。

資料1 学習問題ワークシート ①明治維新

6年 組 番 _____

◎明治維新を進めたのは、どのような人々のどのような思いだったのでしょうか。

明治維新のきっかけ

勝海舟

木戸孝允
大久保利通
西郷隆盛

条約

新選組

物価上昇

新しい政府

幕府に不満

によって開国し、
を進めるための新しい政府を作る運動が進み、260年続いた
幕府は、

などの若い
たちの活やくにより、

感想

②大久保利通ら

6年 組 番 _____

◎欧米に学んだ大久保利通は、どのような国づくりを目指していったのでしょうか。

廃藩置県

富国強兵

富国

殖産興業

地租改正

強兵

徴兵令

四民平等

津田梅子

市民

政府員 大久保利通

感想

③改革に反対した人々

6年 組 番 _____

◎政府の改革に反対する人々はどのような行動をとったのでしょうか。

士族のくらし

武力から

自由民権運動

政府への不満

政府の対応

士族の反乱

全国に広がる

を約束

に不満を持つ人々の行動が
運動は、
に広がり政府は
から
にかわっていき、板垣退助らのおこした
を約束することになった。

感想

④伊藤博文と憲法

6年 組 番 _____

◎伊藤博文は、どのような思いをもって大日本帝国憲法を作ったのでしょうか。

自由民権運動の高まり

政府

大日本帝国憲法

国会

政党

憲法草案

憲法草案

伊藤博文

市民派

伊藤博文は
の権力が強い
を参考に
をつくったが、市民派のつく
った憲法とくらべると、

感想

(3) 調べるⅡ（問題追究）交流の段階

【学び合いグループ学習】【一斉学習】

④⑤「調べて分かったことや考えたことをグループで伝え合おう」

問題別グループで教え合いながら作成したワークシートを使って、伝え合うことにした。学び合いグループ学習とは、4種類の各シートについて、一人ずつが説明をして交流をする学習である。一人が学び合いグループの中で15分程で説明を行い、その後一斉学習で教師がポイントを押さえるという流れで進めた。

写真2 学び合いグループでの伝え合う様子



グループで伝え合う時間には、
「なぜ国民の生活が苦しくなったのかな」「ここよく分からないからもう一度説明してほしい」など、仲間に率直な質問をする様子が見られた。学習の振り返りの中でも、「先生には聞きにくいことでも子ども同士だと聞きやすい」という感想を書いている児童が多く見られ、自分たちで学び合う授業になっていたことが分かった。しかし、どのグループも一問題を一人が担当しているので、『問題追究Ⅰ』がしっかりとできていないと、15分の伝え合いでは理解ができず、教師によるまとめの授業に頼ることになり、5分間での一斉学習では理解できずに終わってしまうこともあった。そこで、机間指導で理解が進んでいないグループを見付けると積極的に説明に入ったが、グループによっての理解度の差が出てしまい、課題として残った。

(4) まとめる（問題解決）段階 【発表グループ学習】【一斉学習】

⑥⑦「明治政府の改革について発表会をしよう」

明治政府の改革について、政府派（賛成派）と国民派（反対派）に分かれて発表会を行うことにした。政府派を希望する児童が6名と極端に少なかったため、国民派から10名が変更をして準備に取り掛かった。

初めに、一斉授業で政策を絞り合った。国民派は、「大日本帝国憲法」「身分制度改革」「徴兵令」「地租改正」の政策を考え、政府派はさらに「廃藩置県」を追加して五つの政策を発表することになった。

次に、政策ごとに発表グループをつくり、発表会用ワークシートに沿って発表会の準備を進めた。最初の主張では、自分たちの思いをなるべく簡単に表現するように指導した。予想される相手の主張、それに対する質問・反論では、相手が反論しそうなことを予想しながら、児童同士で根拠を基に論述をするための話し合いをした。

政府派には、国民派から変更した児童がいることもあり、反論の予想までしっかりとできていた。国民派は、感情論で主張をするだろうと予想をし、「地租改正がなかったら、政治が天候や農産物のできによって左右されてしまったのではないか」「自分も今、消費税を払っているのに、税金を払いたくないから政府に反対

資料2 発表会ワークシート

社会科発表会ワークシート		
6年（ ）組（ ）番 名前（ ）		
1 テーマ	2 あなたの立場	
3 中心となる論点		資料名・ページなど
4 はじめの主張		
5 予想される相手の主張	それに対する質問・反論	
最終弁論用メモ		
7 発表会を終えた後の自分の考えや意見		
発表会を終えて、私は（ ）について（ ）です。理由は、		

写真3 発表会の様子



するなんて、国民派はわがままなのではないか」「徴兵令がなくて、軍隊が弱かったら、西南戦争が長く続いたかもしれない。そうすると国民だって、たくさん戦争に巻き込まれたはずだ」など明治政府の改革の意味をより深く追究することができた。元々国民派だった児童も話合いの深まりとともに、自分の考えも政府派に変わっていく様子が見られた。発表の中では、政府派の立場に立ち、根拠を基に、自分の考えを述べる様子が見られた。

一方、国民派は、感情論からなかなか抜け出せず、「政府は国民の意見を聞かないなんてずい」「軍隊に入らなければならないなんておかしい」など、国民の思いを主張することが多く、政府の改革について事実と事実を結び付けて論ずることができず、根拠を基にした論述には至らなかった。

発表会では、教師が司会者となり、黒板に政策を一つずつ出し進めていった。児童は準備したワークシートを基に発表会に挑んだが、政策の数が多かったことにより、自分が考えた政策以外では質問や反対意見などの発言が少なかった。

発表会后、自分の意見を再構成して論述する場面では、児童がそれぞれ考えを一生懸命に取り組む様子が見られた。ここでは、具体的な政策を基に理由を述べることや、両方の意見を取り入れた上で自分の意見を述べることなど、単元のまとめとして、学習問題「明治政府はどんな国づくりを目指したのか」に対しての答えが出せるように児童に観点を示した。

ワークシートの最後の自分の意見の所には、政府派、国民派両方の意見を取り上げながら、「明治政府が強い国づくりをめざした」という問題の答えをしっかりと表現している児童が見られた。

国民派の児童は、発表で出てきた国民の思いを基に、「国民の意見を聞いて国をつくらなければ国民も納得しない」（資料3）など民主主義という部分で未熟であった明治政府の体制をしっかりとらえることができた。

政府派の児童は「昔から積み上げてきたことを全部無駄にしないために日本を強い国にして外国から守った」（資料4）など国民には伝わりにくかった政府派の思いや「富国強兵というスローガンがあったからこそ、今の日本がある。」（資料4）など明治政府の改革が今現在の日本の発展に関係していること等にもふれて表現することができた。【思②】

資料3 国民派の意見

もし自分が徴兵令で兵士になれと言われてもなりたくありません。強い国づくりをめざしても国民の意見を聞いて国を作らなければ国民も納得しないと思います。政府はあんなことは国民を苦しめたと思います。たかひ反文です。

資料4 政府派の意見

大日本帝国憲法は国民の意見は聞かずに伊藤博文は昔から積み上げてきたことを全部無駄にしないために日本を強い国にして外国から守った。で、こういう憲法がないとすべて無駄になるから大日本帝国憲法をつくったと思うからです。

富国強兵の徴兵令で市民が20才から3年間自由からはなれたのはたしかに国民は政府にたいしてなめたと思えるかも知れないですが、もし外国からめざされてもたいこうでござるしも勝て、その分お金も領土もふえるのでぼくはさくせいです。

地租改正についていろいろ考えて、国民にも大変な思いがあったと思います。ですが、廃藩置県などの制度をきめて富国強兵というスローガンをめざした政府があったからこそ、今の日本があると思います。なので私は政府派です。

7 単元中における「思考・判断・表現」の評価の判定基準及び評価

(N=38)

時	【思考・判断・表現】の判定基準と評価事例	判定人数		
		A	B	C
①	明治時代になって、人々の暮らしや社会がどのように変わったのかを考え、学習問題を選択して書く。 《B判定》 ・文明開化によって起きた変化から、明治政府の行ったことを予想している。 《A判定》 ・文明開化によって起きた変化を西洋化と考え、諸外国と日本の関係に着目して明治政府の行ったことを予想している。 (例) B「20 年で鉄道ができるなんてすごいと思う。明治政府は新しい技術をどのように取り入れたのか」 A「文明開化で西洋風の物がたくさん増えたのは、きっと鎖国をやめて外国から色々なことを教えてもらうことにしたのだと思う。他には、外国のように力をもつために明治政府はどんなことをしたのか」	4	34	0
⑦	明治政府の改革について発表会を行う。 《B判定》 ・自分の意見に根拠を明らかにして述べている。 ・具体的な政策を示し政府の改革をとらえている。 《A判定》 ・政府派、国民派両方の意見を取り込んでいる。 ・具体的な政策も示し、政府の改革を多角的にとらえている。 ・明治政府が強い政府を目指していたことが明確に書かれている。 (例) B「明治政府は、地租改正や徴兵令で人々の暮らしをよけいに悪くしたので、明治政府の政策は、よくなかった」 A「地租改正について考えると税金が増えて、国民にも大変な思いがあったと思います。しかし富国強兵というスローガンを決めて目指した政府があったからこそ、今の日本があると思います。だから、明治政府の改革はよかったと思います」	9	21	8

※単元の評価計画における「思考・判断・表現」の評価について

☆指導に生かす評価・・・単元の途中である第1時の「思考・判断・表現」の評価は、その結果から次の学習につなげる助言を行ったり、達成できなかった子への支援策をとったりするための指導に生かした。

★記録に残す評価・・・第7時の「思考・判断・表現」の評価は、結果を記録に残した。

C判定の8名には、個別指導を行い、歴史的事象の確認を行った。複雑な幕末から明治初期の歴史的認識の再確認のため、NHKデジタル教材の小学校社会（小6）日本の歴史「諸改革と近代化」を視聴させながら指導した。

8 単元の定着度の評価

単元の終了の1か月後に、「明治政府が近代化を進めたわけ」について、2問の定着テストを行った。予告なしで、教科書やノート、ワークシートを参考にさせず、テストの時間は20分間とした。また、文章表現による記述式のテストで、使用させたい事柄・用語の提示も行わず実施した。

設問は、単元で学習した内容の中で、明治政府の国づくりについて、政府側の立場と国民側の立場からそれぞれの事柄と関連付けたり、総合させたりしながら記述させるものである。このテストは、児童が分かったことや考えたことを事柄と関連、総合させながら表現できるかを測定する方法である。

これらの設問による定着度の評価は、人物と改革を「関連付け」した記述、富国強兵と改革を「関連付け」した記述がそれぞれいくつ書けているかによって判定したので、説明が複文になっていても、一文に分けてチェックし、カウントした。

設問① 明治政府の行った富国強兵について、いろいろな改革と関連付けて説明しなさい。

★ 使用させたい事柄・用語

廃藩置県、四民平等、地租改正、徴兵令、殖産興業、富国強兵

★ 解答例

- (1) 廃藩置県を行い、政府の政治の方針が全国に広まるように、県や府を置き、政府の任命した役人に治めさせた。
- (2) 財政の確立のために、地租改正して年貢から現金で税を徴収する体制を確立した。
- (3) 外国が攻めてこないように強い軍隊をもつために徴兵令を出して 20 歳の男子を 3 年間軍隊につかせた。
- (4) 四民平等として、士族以外（平民）から徴兵し、近代的な軍隊づくりにまい進した。
- (5) 外国人の教師や技術者を多数、日本に招いて教育や技術、軍隊の訓練の習得に努力し、西洋に追いつくようにした。
- (6) 殖産興業として、近代工業を始めるために外国から機械を買い、技師を招き、官営工場を各地に設立し、繊維工業を中心とした軽工業の発展に努め、安い製品を輸出することができるようにした。

★ 使用したルーブリックと判定結果

判定	設問①における思考・判断・表現の段階	判定人数
A	3 点以上の事柄について、関連付けて説明できる。	22
B	2 点の事柄について関連付けて説明できる。	7
C	1 点の事柄を説明できる、又は説明できない。	9

設問② 政府に不満をもつ人のとった行動とそれに対する政府の対策について人物と関連付けて説明しなさい。

★ 使用させたい事柄・用語

西郷隆盛と西南戦争、板垣退助と自由民権運動、伊藤博文と大日本帝国憲法、ドイツの憲法と天皇主権、国会開設と選挙

★ 解答例

- (1) 武士の反乱の最後は、西郷隆盛の西南戦争であり、政府に武力では対抗できないことがわかり、その後、板垣退助らは言論で政府を批判するようになった。
- (2) 伊藤博文は天皇を中心とした中央集権国家を成立させるために、ドイツの憲法を見本にして大日本帝国憲法をつくった。
- (3) 自由民権運動の拡大を恐れた政府は、国会の開設を約束し、その準備に伊藤博文ら天皇主権の憲法をつくらせ、発布した。
- (4) 政府は板垣退助などの自由民権派に憲法草案をつくらせたが、まったく採用しなかった。

★ 使用したルーブリックと判定結果

判定	設問②における思考・判断・表現の段階	判定人数
A	2点以上の事柄について、人物と関連付けて説明できる。	19
B	1点の事柄について、人物と関連付けて説明できる。	7
C	人物と関連付けて説明できない。	12

《総括評価の結果における考察》

- ・問①②ともにA判定の児童が約半数いたことから、本学習における歴史的事象の理解の深まりとともに、事象を関連付ける表現もできていることが分かる。
- ・一方、設問①②でC判定の児童はそれぞれ9名、12名おり、論述の基となる知識の定着が不十分であったと考えられる。文章表現による論述の評価が二極化しているのは、問題解決的な学習において、いろいろな形態のグループ学習を行い、基礎的、基本的な事象をきちんと理解し、自分の言葉でまとめたり、説明したりすることが十分できたか否かによるものが大きいと考えられる。授業の発表会後のまとめでも同様な結果が得られており、学習した用語や事柄を十分に身に付けた児童は、歴史的な事象と人物の関連付けや事象と事象の関連付けを説明できたと言える。
- ・自分の調べた歴史的な事象は、グループ内で説明したこともあり、定着も十分であった。しかし、友達から聞き取って学ぶその他の事象については、確実な定着とは言えない。交流学习をした後で、分かったことを短い文で書くことができるワークシートを工夫し、日頃から分かったことや考えをまとめさせる必要がある。
- ・文章表現による説明に対して苦手意識をもつ児童が目立った。「つまり、・・・は、・・・ということである」「だから、・・・は、・・・のである」などという表現の仕方を示し、学ばせたい。

9 成果と課題

(1) 成果

① 主体的な学習への態度の育成と知識の習得

問題解決的な学習について、8割以上の児童が「楽しい」と答えた。児童は、学習問題を設定し、主体的に追究し、問題解決をしようとする姿が多く見られた。また、主体的な取組により、基礎的な知識を身に付けることにもつながった。

② 学習内容をまとめ、表現する力の向上

他の児童に説明したり、伝えたりすることを目的にワークシートにまとめる活動は、必然的に相手意識をもって考えたり、工夫したりして調べたことを分かりやすくまとめる力が身に付いてきた。

③ 学習形態の工夫による主体的な学び

「問題」→「学び合い」→「発表」というグループ学習の形態をとり、いろいろな友達との交流により、学習に対して真剣に取り組む姿勢を必然的に与え、主体的な学びとなった。

④ 意見交流後による考えの再構成

グループ学習や全体での発表会の中で、いろいろな考えや意見を聞き、自分の考えをとらえ直して再構成することができた。

(2) 課題

① グループ学習への配慮

「社会科学習が楽しくない」（単元終了後の調査で2割の児童）という学習に対する否定的な意識をもたせないようにするために、その原因となったグループ学習における一人調べのできない児童に対する個別の支援をしっかりと行っていく必要がある。

② 活発な意見交換のための工夫

多くの児童は、自分の考えを根拠に基づいて発表する準備を行うことができた。しかし、論点が明確でなかったため、活発な意見交換には至らなかった。活発な意見交換を目指し、根拠を基に自分の考えが論述できる適切な論題の設定を再考したい。また、意見交換のための話型の提示も考えたい。

③ 二極化した「思考・判断・表現」の評価

文章表現によって事象を説明する学習を初めて行ったことにもよるが、観点「思考・判断・表現」の評価は、A判定とC判定に二極化した状態であり、C判定の児童がやや多いことが問題である。単元の学習中での指導の在り方を再検討する必要がある。基礎的・基本的な学習内容の理解を十分させる学習と言語による表現活動の充実を考えたい。

④ まとめ（問題解決）のための論述を促すワークシートの工夫と話型

学び合い学習がうまく機能するためには、聞き手の学習方法にも工夫をする必要がある。聞き取って新しく分かったことを自分の言葉で短く書くことができる学びの確認のためのワークシートを工夫したい。それが、まとめの段階における論述を方向付けるものになっていくと考える。

また、考え方や表現の仕方を指導する必要がある。考えたことを表現するための話型を提示して、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。